

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2018年 1月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2018年 1月 1日発行 通巻 297号

今年こそ

無事故で楽しもう！

1月号目次

・ 目 次	2
・ 12月理事会報告	3
・ 新年のご挨拶 古瀬 健	5
・ 〃 広木 国昭	6
・ 〃 鶴田 秀雄	7
・ オートルートトレッキング報告 小山 政夫	8
・ 全国女性と登山参加報告 海瀬 典子	11
・ ゆう便り 25号 山本 尚徳	13
・ 房総ロングハイク概要	14
・ 県連たより	15
・ 1月・2月予定表	16

表 紙 説 明

ヨーロッパアルプス・憧れのオートルートトレッキングを
3ページにわり詳細な報告を投稿していただきました。
マッターホルン周辺のトレッキングは、草原のお花畑から氷河まで
季節を問わず楽しまれています。その中でもオートルートと呼ば
れる今回のコースはトレッカーの憧れのコースです。
その中央にどんと構える、マッターホルン、迫力の北壁です。
私も、この次、この次と思いながらいけませんでした。
ゆっくり映像を見ながら話を聞きたいと思います。
小山さん、よろしくお願いします。

——筆者——

2017 年 12 月千葉県連理事会議事録

【日時、場所】

2017 年 12 月 14 日 19 : 00～ 船橋市西部公民館

【出席者】 省略

【議事】

I 委員会報告

(1)教育遭難対策委員会

11 月に実施した事故防止経験交流集会の様子が「登山時報」に載ることになった と
岡田教遭委員長から報告があった。

(2)ハイキング委員会 ロングハイク 申込者 56 名

(3)自然保護委員会 特になし

(4)組織委員会 依頼中のアンケートは 1 月末締め切りなのでよろしく

(5)女性委員会 ワンコイン講習会を実施した

II 連絡事項

会員数報告未提出の会はよろしく、労山カレンダーの申し込みも早めに
以上会長より

III.役員会報告

11 月理事会で役員選出方法についての役員会案が否決されたのを受けて、その後の対応
を役員会で検討することになっていた。

(1)役員会検討結果報告（鶴田副理事長）

役員選出について 11 月理事会の意向を受けて役員会の検討結果

2017 年 12 月 14 日 役員会

役員会で出た案を以下に記します。

①県連活動に対して大多数の会員が無関心でいるという原点の問題に

立ち返り、この現状を打破する具体案（例えば会横断山行の積極的实施）を役員会、理
事会が考えて、その案に賛同し旗振り役になろうという人を募る。会長、理事長、事務
局長を選ぶという考え方に固執しない。

②現在の理事の方はみな力がありリーダーになれる方なので、理事の

みなさんに（理事の中から 3 役を選ぶことを）強くお願いする。

③現役員が仕事の割り付けを行い（例 役員、理事名簿の作成は〇〇会の

××さんお願いします）役員への負担集中を回避する

但し役員会としての統一見解を出すまでには至らず理事会で再度議論を
お願いする。

*上記案のいずれもすぐに三役が決まるわけではないが 外部からの窓口、内部司令塔
の役目を果たす 3 役は不可欠なので最悪の場合、現役員の向こう 1 年継続する意志を
確認した。

(2) 討議

上記を受けての意見

- ①理事会で理事から意見が出ない。専門委員会ごとに担当理事が集まり議論をしたことがあるがこのときは意見がよく出ていた。このやり方を踏襲したらどうか。
- ②事ここに至っては理事全員のくじ引きで決めたらどうか。
- ③役員報酬を払うしかないか。
- ④出席の理事全員に意見を聞いたらどうか。

Ⅲ. 最後に会長より「今までの経緯を振り返り、目的が達成できなかったことは役員会の責任でありお詫びする」との言葉があった。

以上 文責 鶴田秀雄

総会関連のお知らせ

1、千葉県連 第52期・第53期定時総会について。

- ① 実施日 2018年3月3日（土）12時より（会場決定次第連絡）
- ② 場 所 千葉県スポーツセンター会議室（前年と同じ）
- ③ 代議員 ・総会代議員は、会員10名に1人、端数は四捨五入
- ④ 役 員 ・退会役員を各会にお願いします。
(議長 2名 書記 2名 受付 2名)
- ⑤ 当日迄の予定
 - ・ 議案書印刷 2月20日（火）9時30分 県連事務所
各会よりお手伝いをお願いします。
 - ・ 議案書、 2月22日（木）県連理事会で配布します。
理事さんは持参し、代議員に配布して下さい。

◆ 議案書に対する要望や意見を、2月8日（木）までに、お寄せください。

宛先 県連会長 広木まで Eメール danpuhiro@zpost.plala.or.jp

◆ 千葉県連役員選出について

県連理事会・合同会議 報告でお知らせしていますが、役員選出については解決の見通しがありません。役員会は、総会当日まで努力します。

今、千葉県連は大きな曲がり角にあります。

このピンチを乗り越えるため、全会・全会員の参加・協力をお願いします。

◆ 県連は何をやっているのか分からない、お願いばかり、役員になるいそがしいなど、決して良い印象ではないと思います。

たしかに今は、役員や専門委員の欠員で一部の役員に負担がかかっています。

役員の補充、専門委員会への参加が多くなればそれほどの負担はありません。

悪い印象が先行していると思います。

本来の体制が機能すれば、楽しく学びながら県連活動に参加出来ます。

出来る様になります。ご協力をお願いします。

文責 広木 国昭

第 34 回 房総ロングハイキング概要

主催 千葉県勤労者山岳連盟ハイキング委員会

・日 時 2018 年 1 月 27(土)～01 月 28(日) 一泊二日 (当日参加可)

・集 合 七里川温泉：沖津屋 27 (土) なるべく 16 時 30 分迄集合

28 (日) 当日参加 6 時 00 分集合出発

君津市黄和田畑 921-1 電話 0439-39-3211 フリーダイヤル 0120-397428

・ 28 日コース 石尊山—麻綿原—烏帽子山—鶏毛山—坂本駐車場

6:00 出発・・石尊山 6:40/50・・麻綿原 10:00/10・・分岐 10:30・・一杯水林道・・W0
(ツクバネ樫目印) 入口 10:40/45・・(東大演習林) 大平歩道入口地点・・W15：烏帽子
山々頂 11:50・・巻道合流地点付近 12:00 (昼食) 12：20・・W33：硯石分岐・・向峯林
道・・鶏毛山W45・・民地・・坂本駐車場ゴール 15:00 着予定歩程約 9 時間 00 分 (休憩
含む) 25,000/1 地図「上総中野」「安房小湊」

・募集人員 約 60 名

費 用 6,000 円 (一泊二食と弁当、移動) 当日参加 1,000 円 (弁当、移動、)

締 切 12 月 25 (月) 各会責任者へ申し込む 11 月末中間報告

・直接電車で参加の方

電車時刻 (往) JR 久留里線 木更津発 13：01 上総亀山着 14：08

々 15：48 々 16：54

上記着の時刻に合わせて送迎車が出ます。

自家用車：直接七里川温泉に来て下さい。スペース 5 台位 (出来れば JR でお願いします)

・行動予定

1 月 27 (土)	15：30～	受付開始
	17：30～	挨拶、ガイダンス (日程、コース説明)
	18：30～	夕食、交流会後就眠
1 月 28 (日)	5：00	起床、掃除、支度
	5：30	朝食 (弁当を受け取る) (食事は自由)
	6：00	温泉脇出発
	10：00	麻綿原
	15：00	坂本駐車場着 (JR、バスで送迎)

・電車時刻 (復) 安房天津駅 15：00 発：千葉 16：50 着

安房天津駅 16：21 発：千葉 17:42 着 18：03 発：千葉 19:53 着

・東葛地区 (東葛、松戸、柏、我孫子) はバス利用して、前日軽登山してから
集合地 (七里川温泉) に行く事にしました。

行先 鋸山：車力道コース～観月台コース

・二日目 合同山行

※各会でまとめて申し込む事

・申し込み先 ハイキング委員長 松戸山の会 桑原年一 まで

・申し込み問合せ連絡先 ふわくハイキングサークル 実行委員長 田中 康雄
(TEL/FAX 0475-34-4757)

千葉県連顧問 古瀬 健
(千葉こまくさハイキングクラブ)

初夢を見ました

千葉労山改革プロジェクトチームが発足し、3月の総会に向けて早速活動を開始。1月中旬の某日、いくつかの会から県連事務所に有志が集っていた。そこでは、役員に誰になるかではなく、必要な仕事を仕分けして分担しようと相談している。会議の配置について、また、会場の設定と予約についてどうするか。事務所の整理と郵便物やメールの処理を交代で行うことについてなど、日中にできる人がいればできる作業は何か。全国連盟からの連絡や要請、募集内容で、各会への連絡を行なう担当者を配置しよう。やはり、事務所の近傍に住んでいる人で条件のある人がいい。千葉駅と船橋駅の間に住んでいるような会員に呼びかけて、一度事務所に来てもらえないだろうか。週に3日を3人ぐらいで交代でならどうだろうか。一人が毎週一日事務所に出勤だ。「ちばニュース」はメールでのやり取りで可能だから、これも3人ほどでチームを組むことにしよう。委員会の開催情報を収集し、理事会の招集と議題の準備をするには2人の担当者が必要だ。1月末までに10人の実行グループが編成された。まずは一つずつ実行してみた。これならいけそうだなとなった。委員会の開催は矢張り、毎月の開催が必要だ。委員の勉強会も兼ねてレベルアップが目的だ。ハイキング委員会、教育遭対委員会、自然保護委員会、女性委員会、組織委員会、海外委員会、救助隊などがある。担当理事は出席を義務付けて、活性化を図る。

何んとか担当者が決まったようだ。さて役員会はどうする。ここまで分担ができればその上に乗っかる理事長と事務局長はもうお飾りも同然だ。総会までには役員の目途をつけよう。いくつかの会の中に県連担当チームが出来てその準備が始まった。

ここで目が覚めた。

随分とはっきりした夢を見たものだ。

新年のご挨拶に代えて

千葉県連会長 広木 国昭
(ちば山の会)

新しい年を迎えました。

会員の皆様にとって、有意義で素晴らしい一年になることを祈念します。

新年のご挨拶にかこつけて、

千葉県連の現状を報告して、千葉県連への思いの一端を述べさせていただきます。

・ 千葉県連は2016年に創立50周年を迎えました。2015年より総力を結集していくつかの記念事業を実施しました。

2年間をかけて取り組んだ「みんなで登ろう房総の山・50選」、記念海外登山の「バリ島3山登山」、自然保護運動の集大成「自然保護セミナー」、記念事業のフィナーレ「記念交流会」は雪の中で大いに盛り上がりました。

記念事業に取り組む中で、県連の歴史と底力を感じ、諸先輩の苦勞と労山運動への気概を感じました。バリバリの会員も歴史を重ねて超ベテランになっていました。

・ 創立50周年事業を進める中で、組織の高齢化による大きな問題が明らかになりました。会運営や役員選出に支障が出ている事、数年後には会の存続が困難になる事が懸念されている会もあります。

・ これらは千葉県連の役員選出にも大きな影響が出ています。長期にわたり役員の欠員状態を解決するために、2016年より役員選出に限定した会議を実施しました。毎月の理事会の他に、会代表者・県連理事合同会議を5回実施したが、結論を出せず理事会に差し戻す事を選択しました。参加・協力をいただいた方々には、大変申し訳ありませんでした。いくつかの具体案も出ましたが、自会よりの選出段階になると前に進む事が出来ない、引き受けた場合の責任を痛感し手を挙げる事が出来なかった。しかし、現状を打開しないと前には進めません。

・ 悲観的な事ばかりを列挙しましたが、千葉県連ならではの活動も多くあります。今年で、第34回の房総ロングハイク、ふれあいハイクは第17回となり千葉県連の長寿行事です。また、会員の事故内容に対応した事故防止経験交流会には多くの会員の参加をお願いしたい。少人数で頑張っている女性委員会の、ワンコイン講習会は人気行事で11回になります。その他、松戸地区の会では交流ハイキング、柏地区の会では市民ハイク・公民館まつり等に参加している会もあります。地域との交流を通して会のPR、会員獲得の成果が報告されています。

・ 千葉県連の今年最大の課題は、3月3日（土）に予定している第52期・53期総会を成功させることです。会員の皆さんと一緒に、50年を経過した組織の見直しを行い、見え易い・分かり易い・参加し易い、千葉県連に変える事です。そのためには県連機構の改革・規約の改正等も視野に入れて取り組んでいきます。

労山設立の原点にかえり、仲間と共に楽しい山行を楽しめる千葉県連をめざします。年頭のご挨拶には、不似合いであることをお詫びします。

年頭のご挨拶

千葉県勤労者山岳連盟 副理事長 鶴田秀雄
(ちば山の会)

千葉県勤労者山岳連盟会員の皆様、明けましておめでとうございます。
昨年は千葉県連の様々な活動に参加ご協力をいただきましてありがとうございます。
昨年末から寒波の襲来が続き北日本を中心にかなりの積雪を見ているようです。
多雪地域の皆様のご苦勞をしのびつつも、ここ 2 年間少雪に悔しい思いをした山スキー愛好者の一人として心躍る新年でございます。

昨年 1 年間を振り返り、まずもって会員の皆様におわびをしなければならないのは
「役員不在の長期化に何ら有効な手を打つことができなかった」ことです。
このような事態から脱却するためには私自身心の様相を変えなければならないと思っています。心の様相といえは アメリカの詩人サミエル・ウルマンの「青春の詩」を思い起こす方も多いのではないのでしょうか。

私事で恐縮ですが、昨年 11 月に旧職場の同期入社の集まりがありました。このとき幹事が用意してくれたのがこの詩のプリントでした。皆で声を合わせて朗読(?)しました。
曰く

青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。

優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、

安易を振り捨てる冒険心、 こう言う様相を青春と言うのだ。

(中略)

人は信念とともに若く 疑惑と共に老ゆる

人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる

希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる

(後略)

今年 1 年心中にこの詩を抱いていきたいと思っています。

オートルートトレッキング（シャモニーからツエルマットへ）

小山 政夫（千葉こまくさハイキングクラブ）

7月28日から8月6日の間モンブラン山麓のシャモニーからマッターホルン山麓のツエルマットまでいくつもの峠を越えて歩くオートルート（フランス語で「高い道」）を歩いた。ガイドブックによると1870年ころ英国の登山家たちが現地ガイドを雇って歩いたのが始まりである。当時は氷河をつめて万年雪の残る峠をいくつも越えて行く「グレイシャールート」と呼ばれているもの。1826～1842 James David Forbes という熱心なアマチュアの地質屋が氷河の流路を調査し、1842年にシャモニーからツエルマットを目指した。谷沿いに登り羊飼いや交易ルートとして使われていた高地の峠を越えて行った。しかしまだ正確な地図が無いため大きな氷河を辿ることは出来なかった。

1857年にThe Alpine Clubが創設され、1860年にこのクラブのメンバーであるFrederick William JacombがシャモニーのガイドJean BaptisteとMichel Crozと共にTete BlancheとCol de Valpelline峠を越え高地トラバースルートを伸ばした。翌1861年彼らはCol de Sonadon峠（Grand Combinの下方）を見つけた。

1863年スイスはAlpine Clubを創設。このクラブが山小屋建設の資金援助を行った。オートルートの最初の山小屋は1875年（Stockjiの斜面）に建てられ、次いで1876年にOrny小屋が建設された。

後年スキーによるこのコースの縦走が盛んとなり一躍オートルートの名を有名にした。

ところでヨーロッパのハイカーが目指すこのルートは以前から耳にはしていたが高齢で喘息もちの自分にとっては夢のまた夢。それでも昨年体力試しのためモンブラン山麓をシャモニー～イタリア～スイスと廻りシャモニーに戻るツールドモンブランに挑戦してみた。結果は何とか歩けた。帰る前に書店でオートルートのガイドブックを買い検討することにした。今年になって相変わらず持病と高齢の問題はあるが先送りは出来ない。決心しツアーに参加した。参加人数は13名。北海道、青森、九州からの人もいた。ルート、日程は別表の通りであるが、オートルートと言うもののバス、ロープウェイ、スキーリフトなど利用できる手段は全部利用するという簡略版。装備は日本の夏山縦走程度で可。（上のランクのアルパイン、テクニカル、総合クラスではピッケル、アイゼンそして日数が増える）

山小屋-----小屋は二段ベッドでスペース、寝具とも満足。シャワーは4～5分間湯が出る。朝、夕食付。朝は簡素だが夕食は前菜、スープ、メイン、デザート、コーヒー。飲み物は自弁。デザートはケーキ又はアイスクリーム。

トレッキング2日目のデイス小屋はシェイロン氷河を見下ろす岩の丘の上に立つ。裏側はお花畑、エーデルワイスが沢山あった。4日目のモアリー小屋はモアリー氷河の迫力あるアイスフォール目前に立つ。ダイニングは氷河側にせり出しガラス張りで展望抜群。アメリカの高校生グループが隣にいたが彼らの食欲には恐れ入った。何回もお代わりし、食堂の人が鍋を持ってきて底をさらえている。それでも二三人はスプーンを手放さず嘗

め回していた。

動物---いたるところにマーモットの穴があり少し離れた高見で周囲を見回している。アイベックスも時々見られた。蝶も多く日本のタカネヒカゲ、クジャク蝶、ヒオドシ蝶と同じものが見られた。

峠---トレッキング 2 日目ルー峠 2804m、3 日目リードマッテン峠 2919m、4 日目ツアテ峠 2868m、5 日目ソルボア峠 2835m、6 日目メイド峠 2790mとほぼ毎日峠越えがある。氷河を横断せずその縁に沿って下り渡れる所を渡り反対側を登り返す。そして尾根上の鞍部の越えられそうな所にある峠を乗越して隣の氷河の方へ下る。峠には標識があり一休み。少し下り風の当たらない陽だまりがあればランチ。

山---周囲は雪を頂いた岩山ばかりでどれが何やら分からないほど。トレッキングスタート前日足慣らしで行った山上湖のラックブラン（「白い湖」）からはモンブラン及び周りの針峰群、ドリユウ、グランドジョラスが良く見えた。6 日目メイド峠から南方に真っ白なバイスホルン（「白い峰」）4505mが見える。その後方にマッターホルンがあるはずだ。最後の 7 日目ツエルマットからマッターホルン中腹のヘルンリ小屋まで登った。ダンブランシュ、オーバーガーベルホルン、モンテローザ 4554m、ドーム 4545mなど名峰が全部見える。全く飽きない。

以上毎日峠越えの長丁場で足腰の疲労は極点に達した。しかし岩峰と氷河と花畑を十分楽しんだ。又訪ねてみたい。

オートルート日程 (2017.7.27~8.5)

月日	発 着	交 通	歩程	行 程
7.27	成田～シャモニー			
7.28	シャモニー	バス、リフト	3.5Hr,	足慣らし。山上湖ラックブラン 2352m往復
7.29①日目	シャモニー～デイス湖	車、歩	2.5	仏→スイス、デイス湖---プラフルーリ小屋
7.30② "	プラフルーリ～デイス小屋	歩	5.5	ルー峠 2804m経由デイス湖へ下る---モレイン上を登り岩の上のデイス小屋 2928mへ
7.31③ "	デイス小屋～アローラ	歩	5.0	前日ルートを途中まで下り氷河を対岸へ渡りガレ場を登りリードマッテン峠 2919m---アローラ 2000m
8.1④ "	アローラ～コッタ～モアリ小屋	車、歩	6.5	車 (0.30) ---コッタ 2013m---ツアテ峠 2868m---モアリ氷河---モアリ小屋 2825m
8.2⑤ "	モアリ～ツイナル	歩、リフト	6.0	モアリ小屋---ソルボア峠 2835m---ツイナル 1675m
8.3⑥ "	ツイナル～ツエルマット	バス、ケブルカー、車、歩	6.0	(バス、ケブルカー) ---テイニューサ 2169m--- (歩 6.0) ---メイド峠 2790m---グルーベン村 1822m (車 1.5Hr) ---ツエルマット
8.4⑦ "	ツエルマット	R ウェイ、歩	5.0	マッターホルンヘルンリ小屋 3260m往復
8.5	ツエルマット～成田			



マッターホルン北東壁



シャモニー・モンブランとボソン氷河



テイス小屋裏のお花畑



モアリー氷河・アイスホール



モングライドシェイオンシェイロン氷河
手前左 絶景を見上げる小山さん



良く知られた・メイド峠(2790m)

第8回女性と登山全国集会報告書

女性委員会 海瀬 典子(こまくさHC)

- ・日時：2017年12月2日（土）～3日（日）
- ・場所：埼玉・嵐山・国立女性会館
- ・参加者：原田もと子、栗屋隆子、海瀬典子（こまくさハイキングクラブ）

北海道から九州まで総勢105名の山仲間が集い、山の楽しさを語り合おうと言うテーマにも魅かれましたし、講演も分科会も興味があるものでした。私は「多様な山を楽しむ中高年からの息の長い山登り」この分科会に臨むべく参加しましたが、行ってみたら「登山技術をどう伝え学ぶか」に変更になっておりました。さてさて、技術もない私はひたすら皆さんの発言を聞いておりました。とにかく凄い西日本女性旋風に巻き込まれていきました。この中で一番関心を引いたのは先ず入会したら会員にお助けセットと言う物を必ず持ってもらおうと言う事でした（カラビナ、補助ロープ、スリング3本、ツェルト、ランプ替え電池、120センチのスリングと安全環付きカラビナ）他の会ではそれに山行時に事故が起こった時リーダーは何からすべきかのマニュアルを入れておくそうです。技術は山行時に教えていく。お助けセットはどの会も当然ですと言われました。他にも40年続けてきた女性委員会と言うものが果たして必要なのかと提案がありました

発足当時は女性が子育てをしながら登山をする悩み、技術を付けるには？生理的悩みと沢山の話し合いのテーマが有りましたが、それぞれの会が教育も組織も技術も充実して来た中ではたしてどうなのかと言う事でした。千葉からも全国集会に出たのは40年の中で今回我々3名のみと言う事でした。驚きと同時にこれを機に県連としても我々こまくさハイキングクラブでも話し合いがあっても良いのかなと思いました。もちろん全国の仲間と2日間ふれあい話し合い飲んで食べて 楽しかったですし、これからは40年の歴史を繋いでいくには若く新しい波を巻き起こしていけたら素晴らしい事だと思います。

記 原田もと子

・ 分科会「事故を起こさない体力づくり」

1日目

自己紹介と自分なりの体力づくりの発言がなされました。

その中で持続的に山筋ゴーゴー体操などの運動をしていくことの困難さや、膝を故障した場合どんな風に運動をすればよいかなどの質問が出されました。

2日目

山筋ゴーゴー体操に関して 運動は正しい動作でやらなくては効果が上がらない。

講師を援助するサポーターの育成をブロック単位で要請することを計画中である。

石田先生を招いて講演会を開催する時に使える財政補助がある。（県連が主催すれば、全国連盟の安全対策費として県連の規模に応じた補助金が出る。窓口上野申請書を送ってくれる。）

この制度を使えば、主催者側の負担は講師料2万円くらいと会場費ですむ。

継続して運動を行うにはよく気が付くリーダーが引っ張り仲間づくりすることが大切。
運動について

運動には2つの目的がある、

- ① 筋肉を肥大させる。やっと 5～6 回できる運動をする。その後アミノ酸あるいはたんぱく質を補う、よく眠ることが必要
 - ② 持続力をつける。疲れない程度の運動をゆっくり何回もやる。①②両方をやる。
- 最近スロージョギングや、20 秒高負荷をかけ 10 秒休む運動が注目されている。
いずれも持続が大事、やめれば筋肉は落ちる。

・登山のウォームアップとクールダウン

体や筋肉が冷えた状態で登るのは良くない。初めから急登な山ではウォームアップは必要、ジョジョに登る山ではゆっくり登りながらウォームアップできる。途中 30 分毎にストレッチすると疲れがたまらない。下りは一気に降りがちだが、筋肉に負担がかかっている、やはりストレッチは大事。山を下りたら入念にストレッチすると疲れが残らない。

・ストックについて

トレーニングとしてはストックを使わない方がよいが、山行中にエネルギーを保存して、安全に帰るには使った方がよい。2 本の方がバランスは良い。長さ止めを確認、周りに迷惑をかけないように使う。谷については危ない。疲れを防ぐ手段として、アミノバイタルなどBACCは効果がある。

・ひざ痛予防

足の筋力アップが大事。運動として、椅子に座って片足伸ばし上下運動と両足膝揚げ運動を教えた。余談ですがママチャリはひざを曲げて力を入れるため膝を痛めやすいそうです。

記 栗屋 隆子

「女性委員会活動」

以前は登山は男性がするもの、女性はテントも張れない、ガスもつけられない、というところから、いや女性でも登山ができる、登山がしたい、さらに女性ならではの視点にたった登山ができるのではないかという思いから女性委員会が誕生しました。

山に魅せられ、山を諦めない女性達が自立した登山を目指す為の女性が主役の委員会です。今回初めて参加していろいろな県の取り組みを聞く事が出来ました。

小さい頃から自然に触れるという事のサポートとして子供たちの冒険学校を開く、又、子育て中の若い方達と近くの広場へのミニハイク、乾燥野菜を使つての山頂で手軽に作れる料理教室等もありました。年齢を重ねて一人では山に行かれない人達との山行もありました。山の会に入っていない人達も巻き込んでの活動です。スーパーや公民館等にチラシを置かせてもらっているそうです。又やはりどの会でも若い人の人材不足が問題のようで婚活パーティ登山がいいんじゃないかという意見もでて盛り上がりました。

北海道や熊本、全国から飛行機、夜行バス等で集結しました。

あらためて女性のパワーを感じた2日間でした。

記 海瀬 典子

今年度の「ちば労山ゆう」の活動は、3月の谷川浜洞福寺の植樹の集いを最後に休止していました。

11月23～25日に、募集に応じて下さった9名(男性5名・女性4名)の参加者で谷川浜へボランティアに行ってきました。

年1～2回植樹した桜の見守りを予定していますが、今回洞福寺さんで草むしりをしようと訪問しました。紅葉は終わり落葉していましたが、苗木達はひと廻り大きくなり来年の開花が待ち遠し成長ぶりでした。心配していた水仙は鹿の食害にもあわずに健気に緑の葉を伸ばし、数株程は早くも開花して甘い香りを振りまいていました。このまま水仙が増えて房総の群生地の様になったとしたら嬉しいです。

海岸にはすでに高い防波堤が造られていて、海はその上に登らないと見えなくなっていました。

渥美義悦さんの作業場(防波堤の真下に移転していました)と、渥美一秀さんの作業場との2ヶ所に分かれ、時々吹く寒風の中、牡蠣殻拾いと殻っこ刺しの作業を行いました。手慣れた参加者はどちらの作業も久し振りにお会いした漁師の方々とおしゃべりをしてながらも手際よく進め、目標数量を仕上げて感謝して頂きました。

久し振りのボランティア活動でしたが、遠い親戚の様になった谷川浜の方々の暖かに触れ、参加者の皆さんも作業の疲れも忘れて帰路につきました。



早咲きの水仙～♪



洞福寺さんのご住職さんと



殻っこ刺しもベテランの域



渥美一秀さんご家族と

県連たより

千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

- ◎ 県連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
(県連事務所に常駐者はいません)
- ◎ 加盟会会員の事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
全国連盟事務局にも必ず送付の事。
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
発行責任者：広木 国昭

NPO法人「ちば労山ゆう」

「ちば労山ゆう」は、定期的な支援活動は実施していません。会で実施する、支援活動は引き続き支援しています。復興支援の海産物の販売は継続しています。

「**食べて復興支援**」に協力をお願いします。

出来る時に

出来る人が

出来る事を

- ◎「ちば労山ゆう」への問い合わせは
千葉県連盟ホームページから

「ちば労山ゆう」にお願いします

- ◎「食べて復興支援」
支援物資の問合せは
広木 国昭

danphiro@zpost.plala.or.jp

【編集後記】

- 元旦早々に何を思ったか、今までは考えられない事を行った。
年が変わった、1時に家を出て稲毛より電車で高尾山に初詣山行に行った。
ここまでは良くある話だ。下山後、名古屋をめざす、直通がなく、乗り継ぎで寝る間もない。車窓から、富士山はやっぱり日本一の山だと感じる、甲斐駒は大きい南アも遠望できる。いつもの高速道路の風景との違い等を話しながらで眠くもならない。相方が時刻表をにらむ、今日中に振り出しに戻るとの事ある。
「青春18キップ」良く聞くが利用するのは初めてであった。
結局、当初の目的「名古屋で、味噌煮込みうどん」を断念し塩尻から戻る事になった。甲府から身延線に富士で東海道線に乗り換える。何回か乗り換えて戸塚から稲毛に戻った。最近、聞かなくなったが「こんなに狭い日本、そんなに急いでどこに行く」を実感した。同時に「リニア新幹線」は必要かを考えた一日だった。憧れだった南アをくりぬく、豊富な水資源はどうなる、そこで生まれ育った人々の生活はどう変わるのか、他人事ではない。
千葉県連の総力を結集し、鬼涙山の水、人々の生活を守った運動を思い出す。全国より送られた「鬼涙山を守る」署名が、鬼涙山を守る大きな力になった。南アの自然を守るには、一人でも多くの署名が必要です。
まだ、間に合います。各会で・個人で取り組んで、南アを守りましょう。

県 連 活 動 予 定 表

1		行事予定	2		行事予定
1	月		1	木	
2	火		2	金	
3	水		3	土	
4	木		4	日	
5	金		5	月	
6	土		6	火	
7	日		7	水	
8	月		8	木	
9	火	県連理事会(県連事務所)	9	金	
10	水		10	土	
11	木		11	日	
12	金		12	月	
13	土		13	火	県連役員会(県連事務所)
14	日		14	水	
15	月	女性委員会(県連事務所)	15	木	
16	火		16	金	
17	水		17	土	全国連盟総会
18	木	県連理事会(船橋西部公民館)	18	日	〃
19	金		19	月	
20	土		20	火	県連総会資料印刷・製本
21	日		21	水	
22	月		22	木	県連理事会(船橋西部公民館)
23	火		23	金	
24	水		24	土	
25	木		25	日	
26	金		26	月	
27	土	房総ロングハイク	27	火	
28	日	(七里川温泉泊)	28	水	
29	月				
30	火	組織委員会(県連事務所)			
31	水				

発行者：千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (常駐者はいません)

発行責任者：広木 国昭(danphiro@zpost.plala.or.jp)

問い合わせは:千葉県連ホームページ・事務局への問合せまで